

[05] 農場研究資料表紙目次等

<https://hdl.handle.net/2324/13250>

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 5, 1980-03. 九州大学農学部附属農場
バージョン：
権利関係：



資

料

九大農場における規模の推移

1. はじめに

昭和40年以降、500坪ハウス、篠栗分場の造成と併行し、大型農機具が導入された。一方、定員削減によって、職員数は減り、農場実習を受ける学生数は増加するという傾向が続いている。農場の現状を知り、今後の方向を策定するために、激しく動いて来た経過を客観的に把握する必要がある。大正12年の農場創設以来の歩みを整理するとなれば容易ではない。戦前と戦中、戦後では大きく農場の内容は変わっていると思われるが、とりあえず、昭和37年以降の変動を整理することで、大方の目的は達せられよう。資料は主に「農場協議会資料」に依った。

2. 職員構成、学生数、経営規模

昭和37年における定員数は教官4人（現員5人）、事務官・技官34人（現員35人）であったが、同54年には9人の減少となっている（表1）。この減少の内容は、2人が助手への振替、7人が定員削減である。7人の定員削減はほとんど技官に限られている点が特徴であり、もっとも大きな減少は作物研究室、ついで調査室、その他となる（表1、2）。度重なる定員削減は農場職員の高年令化をもたらしている。技官平均年令は、昭和37年の38才、同40年の35.7才から54年には45.2才へ、また39才以下の技官の割合は23.5%へと若い技官が激減している。一方、農場実習を受ける学生数は、40～60人から110人に増加し、経営規模も果樹園の倍増、500坪ハウスの増設、篠栗牧場造成と肉牛部門の新設と拡大が進んでいる（表1）。このため、農業機械の導入が進められたが、高年令化の条件の下で、機械使用による事故の発生、病気が増加している。また、作物の栽培管理、家畜の飼養に追われ、農場実習教育に十分の取組が出来ず、且つ負担になっている。

3. 農場支出の推移

第1の特徴は年を追っての農場支出額の増大である（表3）。第2に、支出のうち、もっとも著しく増大した費目は各所修繕費、特別設備費、設備更新費、農場設備費、近代化設備費、実習施設設備費などの、いわゆる臨時的なものである（表3）。これは急速に増えた農機具の償却費的なものであり、また、老朽化した施設の維持費の性格が強い。それでもなお、農機具の買い替えは充分でなく、維持費は大きな負担となっている。第3に、昭和48年以降、非常勤職員の給与が増大している。これは、定員削減に伴うものである（表3）。

さらに、各研究室別の配当予算をみてみよう（表4）。全体として配当予算が増加しているのは当然であるが、畜産研究室における昭和48～50年の前年をはるかに下廻る配当、同じく作物研究室における同47～49年の低下は注目すべきである（図1）。文部省における配当方式の変更をそのまま農場に適用した結果、このような変動が生じ、経営方針を大きく変えることになった。

しかし、この2年間位は、支出計画を充す予算が配当されている。

農場経費は昭和39年頃から同48年頃まで各大学農場の収入に応じて配分する方式が取られた（表5）。これは、文部省・大蔵省による大学農場予算の独立採算化を目指す方針によるものであった。昭和43年には、農場経費の実に70%を収入によって配分している（表5）。最近は、収入による配分は30%以内になっているが、目標額を達成しないと、翌年の予算を減らされるので、収入を追求せざるを得ない現状にある。

4. 農場収入の推移

各研究室別の収入の推移は表6、図2に示す通りである。

各研究室とも昭和40年代前半は前記の理由により無理して収入をあげていたもので、予算に対する収入の割合は大体において高い（表7）。これに対し、最近では、相対的な配当予算の増大によって、予算に対する収入の割合は低下しつつある。施設園芸、果樹の両研究室の予算に対する収入割合は低い（表7）。施設園芸研究室は貸鉢による収入が除かれているために、収入割合が低くなっている。また、定員が少ないため、パートによる雇用を常時3人入れており、これが経費を押し上げている。

果樹研究室の収入が少ないのは、①品種保存園を108a維持している、②ブドウは植栽したばかりで成園になっていない、③ミカンの収量が低いということによっている。

5. 作付作物面積、家畜頭数の推移

(1) 作物研究室

定員数の減少と農業の機械化のなかで、作付作物数の減少がみられる（表8）。とくに、豆類、麦類の減少が著しい。もっとも、これら作物の作付が減った大きな理由の1つは、暗渠排水を主とする土地改良が行なわれていないためである。田面と川との落差が小さいため、土地改良には大きな投資を必要とする。

(2) 果樹研究室

果樹園面積が昭和48年の494aを最高に、その後減少に転じ、同54年には413aとなっている（表9）。この減少は本場の果樹園の減少と篠栗分場の普通温州ミカン伐栽による（表10）。本場のブドウを篠栗分場に移した時、30a程面積が減り、ミカンも昭和49年以降徐々に伐栽され、同54年には150aの減少となった。このミカンの跡地の1部はイチジク、クリなどの品種見本園になりつつある。

(3) 施設園芸研究室

500坪ハウスにおける作付作物の推移の特徴は、作物数の減少である。すなわち、かつては6種類の作物が、今日キュウリ600坪、メロン400坪、セルリー150坪に特化している。この理由として、球根類は種苗費が高い、ナスは紫色の出現がわるい、トマトは多労的であり、

農繁期の山が多くなるということがあげられる。作物数を制限した方が、技術の向上、管理面で有利であるということになる。しかし、キュウリの場合、土壌消毒が十分に行なえず、連作を行なうことによる病気が問題である。

花卉および貸鉢においては大きな変動が見られない。

(4) 畜産研究室

昭和39年以後の農場の独立採算制の実施に伴い、当農場の乳牛頭数は増加した。急速な規模拡大を進めるため、8頭の素牛を導入している。昭和37年の経産牛10頭から、同43年には18頭になり最高となったが、その後、「石油ショック」後の飼料価格高騰と収入による配分の減少によって、頭数は減少に向っている（表12）。だが、優良乳牛の導入、飼料作の増収、受胎率の向上などにより、昭和37年の20,327kgから、同48年の75,560kg（最高）に達し、その後70,000kg台を維持している。一方、昭和41年以降篠栗牧場の造成により、肉牛と豚の頭数が増加を続けたが、同49年以降、配当予算の減に伴い、急速に豚、肉牛ともに頭数が減ってきた（表12）。とくに、豚の場合濃厚飼料主体のため、飼えば飼う程赤字になる予算配当になっている。しかし、農場実習の教材として飼養を行なっている。鶏は教官研究のため飼養している。

飼料作における特徴は、飼料作物の種類の減少である。かつてのカンシヨ、ダイズ、エンバクなどが消え、イタリアン、デントコーンを主とする貯蔵型体系に移行しつつある（表13）。

昭和 37 年以降農場運営の推移

表 1. 附属農場における年次別年令構成、学生数、経営規模

年 度	① 事務官 技 官 定 員	② 技官現員	技 官 平均年令	39才以 下の技官 の割合	農場実習学生数			経 営 規 模			
					計	年 間	③ 集中実 習のみ	水 田	④ 果樹園	⑤ 牧草畑	⑥ 模 式 温 室
37 年	34 人	24 人	38.0 才	66.7 %	59 人	44 人	15 人	6.0 ha	2.0 ha	7.7 ha	100 坪
38	34	24	39.0	62.5	39	23	16	6.1	2.0	7.7	100
39	34	22	37.7	59.1	46	17	28	6.0	2.0	7.7	100
40	32	21	35.7	66.7	67	28	39	6.0	2.0	7.7	100
41	32	20	36.7	65.0	55	20	35	6.0	2.6	7.7	600
42	32	21	37.7	57.1	68	30	38	6.0	3.6	7.7	600
43	32	21	38.7	42.9	72	33	39	6.0	3.3	7.7	600
44	31	20	37.7	50.0	71	31	40	6.0	3.3	7.7	600
45	30	21	37.9	52.4	71	41	30	6.0	3.2	7.7	600
46	30	21	38.9	52.4	74	41	33	6.0	4.0	7.7	600
47	29	20	40.9	50.0	62	45	17	6.0	4.0	7.7	600
48	28	20	41.9	50.0	67	46	21	6.0	5.0	7.7	600
49	28	19	42.1	42.1	63	46	17	6.0	4.6	7.7	600
50	27	19	43.1	36.8	100	75	25	6.0	4.5	7.7	600
51	27	19	41.8	42.1	115	90	25	5.2	4.3	7.7	600
52	26	18	41.8	33.3	107	82	25	5.1	4.0	7.7	600
53	25	17	44.2	29.4	110	85	25	5.0	4.1	7.7	600
54	25	17	45.2	23.5	110	85	25	5.0	4.1	7.7	600

① 定員には事務職員を含む

② 技官現員には作業員を含む

③ 夏期集中実習は終日で5日間

④ 果樹園における41年以降の増加は篠栗分場のミカン園

⑤ 普通畑も含む

⑥ 41年の500坪増はファイロン温室

表 2. 農場研究室別現員推移

単位：人

年度	作 物	果 樹	施設 園芸	畜 産		機 械	調 査	事 務
				酪 農	肉畜			
37	8	7		5		2		8
38	6	7		8		3		8
39	8	6		4		2	3	8
40	6	6		6		2	3	8
41	5	4	2	6		2	2	8
42	5	4	2	4	3	2	1 (1)	9
43	5	4	2	4	3	2	1 (1)	8 (3)
44	5	4	2	4	3	2	1 (1)	9 (2)
45	5	4	2	4	3	2	1 (1)	9 (2)
46	5	4	2	4	3	2	1 (1)	10 (1)
47	4	4	2	4	3	2	1 (1)	9 (2)
48	4	4	2	4	3	2	1 (1)	9 (2)
49	4	4	2	4	3	2	1 (1)	9 (2)
50	4	4	2	4	3	2	1 (1)	8 (2)
51	4	4	2	6		2	1	8 (2)
52	3	4	2	6		2	1	9 (1)
53	3	4	2	6		2	—	9 (1)
54	3	4	2	6		2	—	9 (1)

注) 1. ()内は非常勤職員

2. 上記の現員は教官、事務官を除いた技官のみである。

表3. 年度別農場支出の推移

単位: 万円

費目	年度	38	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
職員諸手当	248	704	710	882	1044	1024	1026	1182	1163	1528	1979	2186	2649	2272	2500	
超過勤務手当	458	697	828	1087	945	1180	1480	1573	1730	2083	2997	3117	3315	3698	3550	
職員旅費	135	268	443	394	423	416	450	468	536	693	733	698	862	1068	1390	
共通経費	1668	1650	1945	3558	2921	4322	2838	3200	3618	4973	4382	5187	5049	6783	7380	
光熱水料	406	623	643	676	844	836	1092	1279	1363	1243	1955	2029	2548	2675	2620	
通信搬費	158	167	189	201	263	337	355	370	349	324	285	334	404	608	660	
被服費	—	—	—	27	—	—	—	—	—	20	20	06	12	04	—	
自動車維持費	234	304	466	721	804	473	360	590	220	223	252	700	998	422	550	
会議費	209	79	130	117	120	86	160	130	133	315	163	219	193	263	350	
防火用具整備費	—	—	35	69	60	70	14	—	315	—	110	—	—	—	—	
建物その他修繕費	577	124	139	1166	441	1512	285	—	745	1001	79	—	—	—	3020	
物品費	—	—	143	386	185	349	275	375	338	1562	1257	—	—	—	—	
雑役務費	—	30	11	26	40	20	17	24	28	142	153	1634	744	2646	80	
研修費	48	109	62	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
実習費	09	195	117	146	164	126	220	431	127	143	108	265	150	165	100	
予備費	27	19	11	24	—	514	59	—	—	—	—	—	—	—	—	
庁費	204	648	706	551	519	542	506	874	440	1347	449	1590	1258	2020	2220	
臨時事務職員賃金	—	—	785	655	881	857	1085	1150	913	1793	2442	2949	2887	1984	1600	
教官当算校費農場経費	3469	5052	16733	23381	19157	27119	18673	16541	15201	20870	30649	28649	21200	26152	23700	
各所修繕費	—	—	326	558	3170	2324	3000	1500	300	1701	3000	2100	1550	3523	—	
職員厚生経費	27	29	26	31	35	38	45	45	44	51	128	—	56	60	57	
特別設備更新費	—	5734	—	—	—	—	—	4055	4000	—	—	—	4418	4900	7100	
設備費	—	—	—	—	—	—	765	495	550	410	610	665	1462	1032	1500	
篠栗場成備費	—	—	—	—	3530	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
農代化設備費	—	—	—	—	—	—	3544	1000	2400	—	—	—	—	3000	1750	
近自動車重量税	—	—	—	—	—	—	—	8270	—	—	9743	9392	自動車購入費	—	—	
自習施設費	—	—	—	—	—	—	—	20	23	23	75	—	1080	—	—	
実習施設費	—	—	—	—	—	—	—	—	1750	—	—	—	9851	750	750	
その他の	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	444	14782	22524	31120	32714	38752	33412	40373	36043	35472	57187	57458	56935	57242	58337	

表 4. 年度別研究室別配当予算

単位：万円

研究 年度	作 物	果 樹	施 園	畜 産		機 械	調 査 室
38	59.2	95.8		122.5		33.7	
39	76.7	25.1	47.1	163.3		16.2	7.7
40	87.3	18.7	62.7	166.0		30.3	8.5
41	87.7	7.3	57.0	97.6	27.0	28.0	30.2
42	124.9	32.0	62.3	344.4	217.5	45.0	23.0
44	159.6	152.9		392.5	325.1	40.0	36.6
45	206.1	124.0	150.0	370.6	(297.0)	33.7	41.4
46	210.2	(194.3)	168.4	(500.0)	(303.5)	(40.0)	(56.7)
47	112.7	72.8	150.0	456.4	149.2	27.1	15.4
48	(151.0)	(221.6)	45.0	(461.6)	(279.5)	(49.5)	(139.0)
49	113.7	125.3	(160.1)	381.6	222.6	40.0	114.2
50	(154.7)	(121.8)	39.7	(401.1)	(191.5)		(152.1)
51	194.9	71.5	275.3	289.3	144.1	32.0	144.1
52	(229.0)	(124.0)	(200.7)	(452.9)	(181.7)	(52.0)	(41.4)
53	252.0	156.1	258.1	276.8	158.3	41.7	41.4
54	(246.6)	(174.9)	(272.1)	(580.8)	(262.4)	(71.8)	(49.9)
	275.0	224.0	274.9	345.4	169.5	82.4	24.0
		(196.6)	(279.7)	(830.1)		(77.0)	(41.8)
	194.9	229.0	275.3	58.00		52.2	24.0
	(229.0)	(242.9)	(280.0)	(855.8)		(88.0)	(69.3)
	214.6	266.3	297.0	641.6		57.9	74.0
	(244.1)	(266.3)	(291.0)	(863.0)		(82.5)	(92.9)
	252.0	331.0	341.0	696.4		56.8	130.8
	(246.6)	(310.0)	(354.0)	(701.4)		(95.0)	(108.8)
	275.0	329.3	394.5	812.7		59.3	108.8

注) 1. () 内は支出計画額

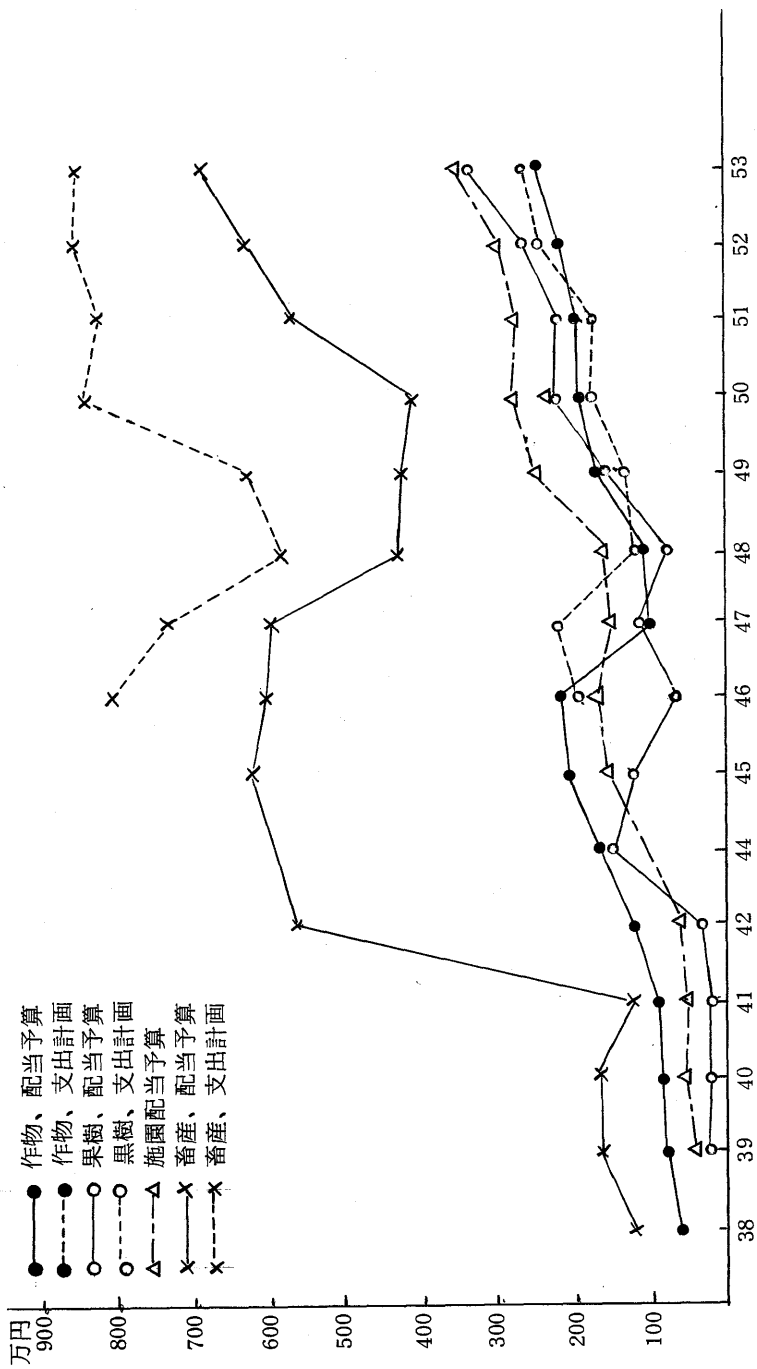


図1. 研究室別配当予算、支出の推移

注) 畜産研究室における昭和42年の急激な増大は、肉畜研究室が新設されたことによる。

表5. 農 場 経 費 構 成

	農 場 経 費	積算による分	収入による分	そ の 他	収入による分 の 割 合
昭和39年度	396.5 万円				
41	404.5	231.7 万円	238.1 万円	31.8 万円	58.9
42	621.6	217.1	388.2	16.3	62.5
43	999.7	294.5	689.4	15.8	69.0
44	988.0	321.0	651.2	15.8	65.9
45	1,117.2	361.7	725.6	29.9	64.9
46	1,085.8	345.6	710.3	29.9	65.4
47	1,039.3	508.6	233.2	549.9	22.4
48	1,020.5	458.1	532.5	29.9	52.2
49	1,222.5	693.6	490.6	38.3	40.1
50	1,657.5	1,034.4	584.8	38.3	35.3
51	1,759.9	1,135.4	588.3	36.2	33.4
52	1,886.3	1,252.2	594.2	39.9	31.5
53	2,185.2	1,493.7	652.2	39.3	29.8
54	2,345.9	1,657.6	649.0	39.9	27.7

表6. 年度別研究室別収入の推移

年度 研究室	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
作物	1260	1439	1770	1716	2596	3125	2734	3304	3509	3521	3148	3929	4546	6282	5474	6602	6012
果樹	934	472	543	678	944	1116	1156	1581	1591	1418	2143	2074	2592	1656	2019	3238	2106
施園			188		513	1125	1185	1395	972	1576	1500	1440	1685	1683	1613	2168	2265
酪農	1493	1788	2946	2989	4078	4990	5559	5377	6392	6733	8149	8130	9095	10585	13028	13320	12987
肉畜					270	4044	3480	3338	3367	3360	2681	4529	1549	4205			
その他	01	02	14	83	489	16	06	22	201	79	249	—	—	—	—	—	—
計	3688	3701	5461	5466	8890	14416	14120	15017	16032	16687	17870	20102	19467	24411	22134	25328	23370

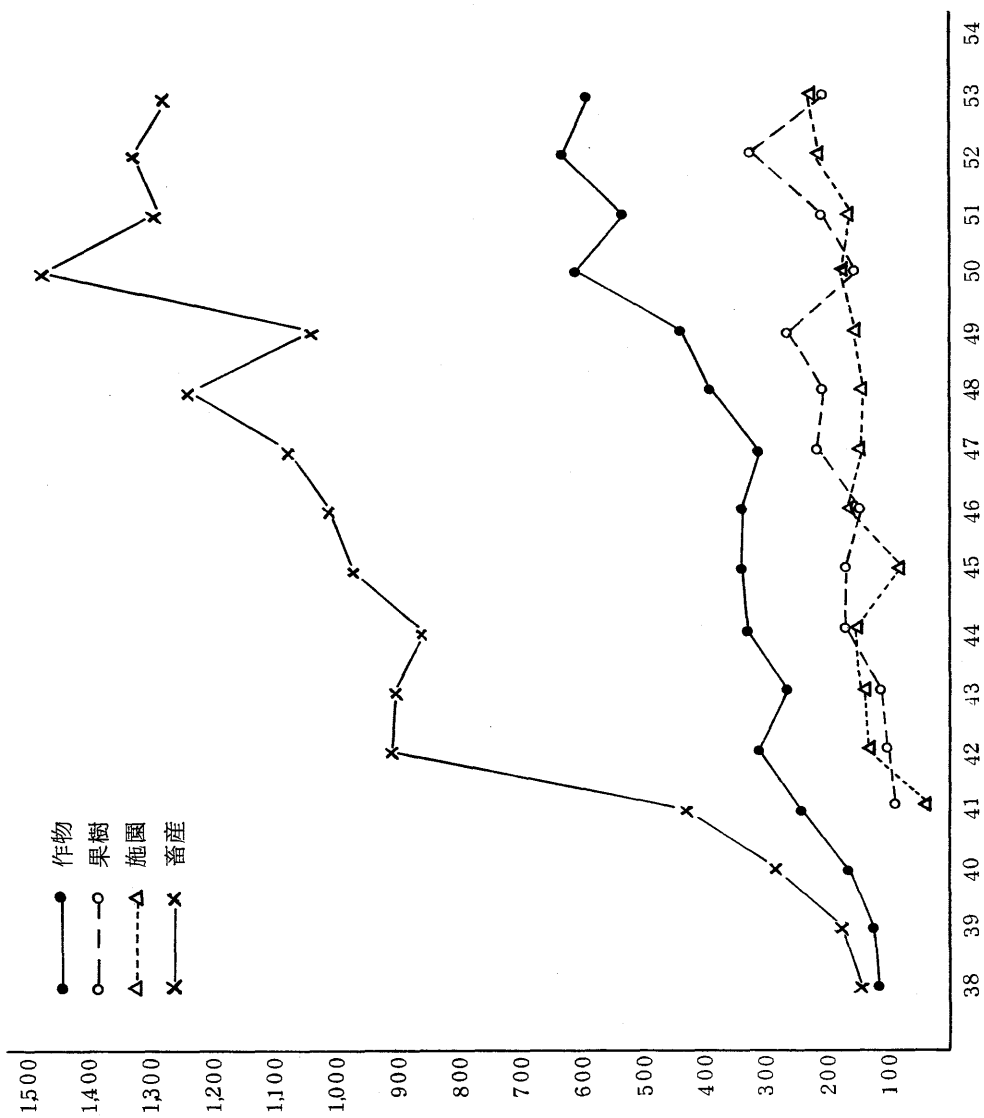


図 2. 研究室別収入の推移

表 7. 配当予算に対する収入割合
単位：%

研究室	年度	昭和41年	45	50	53
作物		296.0	170.3	324.7	238.6
果樹		1,293.2	128.3	73.9	64.0
施設園芸		90.0	64.8	61.2	66.4
畜産		349.0	156.4	287.2	186.0

表 8. 年度別作物面積の推移、作物研究室

単位：a

作物 年度	水稻	小麦	大麦	麦類 見本園	青刈 小麦	エンバク	イタリアン ライグラス	大豆	小豆	黒豆	蚕豆	青刈 大豆	レンゲ	甘藷	ハルシヨ	菜種	茶	ヒマ
37	524	55			259	94		30			32	259		6		62	8	
38	524	55			183	26		30			12	155	120	6				
39	524						56	30				150	84	6				
40	524	120			156			30	10			181	135	6				
41	564	126						30	10			151						
42	564	95			126		10	10	10			126						
43	580 ⁽¹⁾	130					33		10			126						
44	604 ⁽²⁾	120					93			5								
45	604	123	20	4			88			5			67		10			
46	604	180		4						10					15			
47	604	99		4						10					15			5
48	604	70		4			35								15			5
49	604	97		4			70							4	20			5
50	604 ⁽³⁾	100		4											20			5
51	520 ⁽⁴⁾	100	17	4			55								15			5
52	516 ⁽⁵⁾	90		4						10					15			5
53	484 ⁽⁶⁾	90	17	4						10					15			5
54	464	90		4				20		10	5				20			5

注) (1) ボタ地の水田化 (2) 耕地整理 (3) 系統保存田を育種研究室に移管
 (4) 馬術部に移管 (5) 10 a馬術部移管、16 aは転作 (6) 他作物に転作

表 9. 果樹園面積

単位：a

項目 年度	本場	篠栗	計
37年	185	—	185
38	185	—	185
39	183	—	183
40	198	—	198
41	198	70	268
42	198	161	359
43	181	152	333
44	179	152	331
45	165	152	317
46	165	234	399
47	166	234	400
48	146	348	494
49	144	320	464
50	115	335	450
51	115	317	432
52	39	365	404
53	39	374	413
54	39	374	413

表 10 樹種別面積

単位：a

項目 年度	ぶどう	柿	みかん	品種保存	合計
37年	83	40	8	54	185
38	83	40	8	54	185
39	75	30	8	70	183
40	86	30	8	74	198
41	86	30	78	74	268
42	87	30	168	74	359
43	87	30	151	65	333
44	87	30	151	63	331
45	77	30	151	59	317
46	77	30	233	59	399
47	82	30	233	55	400
48	62	30	347	55	494
49	80	30	301	53	464
50	80	30	301	39	450
51	80	60	218	74	432
52	53	60	210	81	404
53	55	60	210	88	413
54	55	60	** 190	108	413

＊ 柿は品種保存の性格

**温州みかんをクリ、イチジクに転換

表 11. 年度別作物別作付面積推移、施設園芸研究室

単位：坪

項目 年度	メロン	トマト	キュウリ	アイリス	フリージア	ユリ	セルリー	シクラメン	ポインセチア	貸 鉢
42	700		100	100	100			20		164
43	400	100	200	200				20		164
44	500	100	100	200	50	50		20		164
45	600		200	100	50	50		20		164
46	300	100	400	100	50	50		20		164
47	400		500	100				20		164
48	400		500	100				20	8	164
49	400		500				100	20	8	164
50	400		500				100	20	8	184
51	400		500				100	20	8	184
52	400		500				100	20	8	184
53	400		500				100	20	8	184
54	400		600				150	20	8	184

表 12. 家畜飼養頭羽数の推移

年度 \ 種類	乳 牛	肉 牛	豚	鶏
昭和 3 7 年	1 0 頭	— 頭	— 頭	1 2 8 羽
3 8	1 1	—	—	—
3 9	1 2	—	2	3 5
4 0	1 3	—	2	1 0
4 1	1 2	8	1 4	1 5 3
4 2	1 5	1 8	4 3	—
4 3	1 8	2 2	3 9	—
4 4	1 5	1 3	5 9	—
4 5	1 4	2 3	6 3	—
4 6	1 5	2 3	6 7	6 4
4 7	1 3	2 6	3 9	6 4
4 8	1 4	2 9	5 7	8 2
4 9	1 4	2 2	8	1 4 9
5 0	1 5	2 4	2 5	1 1 1
5 1	1 5	2 3	1 1	1 1 1
5 2	1 4	1 4	1 7	2 1 8
5 3	1 5	1 4	1 8	1 4 5
5 4	1 6	1 0	2 4	1 9 5

注) 乳牛のみ経産牛頭数、その他は総頭羽数。

表13. 年度別飼料作物推移、畜産研究室

単位：a

年度	本					場			産		
	イタリアン	デント コーン	ソルゴー	カ ブ	キシユウ スズメノヒエ	牧 草	青刈大豆	エンバク イタリアン	イタリアン	デントコーン ソルゴー	牧草地
3 7			ソルゴースーダン 170			小麦	60	エンバク 370			
3 8	60	140		90 (カブ大根)	甘藷 70 エンバク	甘藷 70		エンバク 227 レーブ 19			
3 9	141	94	288	71 (カブ大根)	334	甘藷 35	98				
4 0	43	20 ソルゴー	277	140 (カブ大根)	小麦 97	甘藷 35	68	エンバク 317			
4 1	43	142	293	31 (カブ大根)	ケンタッキー 22 クロード 112 イタリヤ 34 ローラス 79 ソルゴー	甘藷 20	112	エンバク 19			
4 2	243	50 ソルゴー	372	5 カブ 大根	クロード 34 イタリヤ 79	クロード 213 イタリヤ		71			
4 3	256	121	337	20 カブ 大根	ローズ 100	クロード 100 イタリヤ		128			
4 4	420	57	426	40				37			
4 5	450	110	410	70							
4 6									90	90	
4 7	355	56	333	61					90	90	
4 8	356	62	356	62		84			90	90	
4 9	438	106	202	62	20	84			90	90	
5 0	422	192	143	76	20		87		90	90	
5 1	480	100	287	62	20				90	90	
5 2	464	181	360	62	20				90	90	イタリヤン 170
5 3	505	388	134	22	20				90	90	270
5 4	500	203	256	42	20				90	90	270